

法動詞を伴う前時の反実仮想を表す形式について

2017.3.4 東京スペイン語学研究会
栗林ゆき絵

1.はじめに--問題のありか

*例文は別紙も参照（△注は配布なし）

- (1) A: Siento llegar tarde.
B: Debías/Podías haberme llamado.

A と B はいずれも発話時以前の事象(llegar tarde, llamarme)に言及。
許容される時制形式の取り方が異なる。

感情評価述語 sentir

- (2) Siento {llegar / haber llegado} tarde.

法動詞 deber / poder

- (3) Debes { (a)▲llamarme / (b) ▲haberme llamado}. ▲は非文ではないがこの文脈では不適切
(4) Puedes { (a) ▲llamarme / (b) ▲haberme llamado}.
(5) Debías { (a) ▲llamarme / (b) haberme llamado}.
(6) Podías { (a) ▲llamarme / (b) haberme llamado}. △1

「～すべきだったのに(しなかった)」「～してもよかったのに(しなかった)」となるのは(5b)(6b)。
過去(発話時以前)の義務的な事象と、それが実現(成立)しなかったことに言及。「前時の反実仮想」
(5b)(6b)には「したほうがよかった」という価値判断が入る。

2.仮説・検討の方法

仮説：テキストの基準時に対して

「テンスとタクシス(前後関係)が前時方向に2つズレ」ていれば「前時の反実仮想」を表す。

*2 ズレ反実でどこまでいけるか

上記の仮説に基づいて、具体的には以下3点について検討を行う。

検討1 (文生成の規則)： "こう言えば大丈夫"

法動詞の過去時制 + 不定詞複合形 で前時の反実仮想が表せる。 ... (1)B=(5b)(6b)

*法動詞は *deber*, *tener que*(義務,推測)と *poder*(可能性)のみを対象とする。

検討2 (文解釈の規則)： できる限り言語外知識に依存しない記述を目指す。

テキストの基準時に対し「テンスとタクシス(前後関係)が前時方向に2つズレ」ていれば「前時の反実仮想」あり。「ムードも含め3つズレ」ていれば「前時の反実仮想解釈のみ」。
ズレなし、または「1つズレ」は非反実解釈。

検討3： 反実仮想の構文と mirative(驚嘆性・意外性(Delancey2001)(栗林2016))の構文の関係。

以上3点に関し、巻末に掲載したコーパスを使用して例文を検討した。

3.検討1 (文生成の規則) 前時の反実仮想を表す動詞形式の選択

3.1. 前時の反実仮想専用の形式

3.1.1. 文脈(発話時介入の有無)によらず基準時以前の反実仮想を表す構文

- 1) si+接続法過去完了, 過去未来完了 △2 例文集 (7)
- 2) como si+接続法過去完了 (8)
- 3) ojalá+接続法過去完了 (9)

3.1.2. 「転位 *dislocación*」(あるいは「裏返し戦略」)

反実仮想の形式の特徴(1) .. 時制をずらす

Rojo の「転位 *dislocación*」(Rojo1990:38)(川上 2010) "裏返し戦略"

基準時の成立事象に反する不実現の事象に言及→接続法過去を使用 *基準時と事象の関係[図 1]

(発話時基準なら現在) 過去方向に 1 つ移動(テンス)
ムードは接続法(有標の形)

(10) (a) Si me *tocara* la lotería, ... (b) ¡Ojalá me *tocara* la lotería!

基準時以前の成立事象に反する不実現の事象に言及→接続法過去完了を使用

(発話時基準なら過去) 過去/前時方向に 2 つ移動(テンスとタクシス)
ムードは接続法 *3 つの軸の値変更(移動) [図 2]

(11) (a) Si me *hubiera tocado* la lotería, ... (b) ¡Ojalá me *hubiera tocado* la lotería!

反実仮想の形式の特徴(2) .. 時制の一致が適用されない。**dislocación* がないのに反実解釈。

(12) Se porta/Se portaba como si *fuera* mi novio. ..(13)(14)

3.2. 法動詞を主動詞とする場合の前時の反実仮想を表す形式

3.2.1. 基準時現在(発話時介入あり △3)の場合

基準時=現在に対して、時制形式を「過去」と「完了(前時)」方向に「2 つずらす」。

「接続法」(法の変更)の代わりに法動詞を使用

(15) 発話時(現在)が基準時で基準時以前に言及

法動詞の過去時制 + 不定詞複合形 (現在完了相当)

(16) Debías haberme llamado.

(17) Tenías que haberme llamado.

(18) Podías haberme llamado.

☆会話のルール 前時の反実仮想は「2 つずらす」 過去時制+不定詞複合形→不実現の事象 .. (19)

cf. 感情動詞の場合 (20) Siento llegar tarde. 現在時制+不定詞単純形→成立事象

☆「1 つずらす」だけでは反実仮想にならない。(単なる過去の推測・義務 △4)

debe+haber p.p.は不実現を含意しない形式。(寺崎 2012:79)

(21) Julián *debe /tiene que/puede haber llegado* a tiempo. .. タクシスのみ移動

時間どおり来たはずだ(deber, tener que)/ 時間どおり来たかもしれない(poder)

「法動詞を伴う前時の反実仮想を表す形式について」

© Yukie Kuribayashi2017

debió+inf.は必ず不実現の事象を表すわけではない。(寺崎 2012:81)

(22) Julián *debió/tuvo que/pudo llegar* a tiempo.

.. テンスのみ移動

時間どおり来るべきだった(deber, tener que)/ 時間どおり来ることができた(poder)

*deber, tener que もともに反実解釈は可能(川上 2014)

☆「3 つずらす」(主動詞のテンス、タクシス、ムード変更)と反実解釈のみ。=反実仮想専用構文

(24) 法動詞の接続法過去完了+不定詞単純形 (厳密には過去完了相当)(25) *Hubieras debido/tenido que/podido llamarme.*

電話すべきだったのに(しなかった)

3.2.2.基準時過去(発話時介入なし)の場合

反実仮想は基準時過去でも時制の一致を受けない→基準時が現在のとおり形式。

(26) 基準時が過去で基準時以前に言及

法動詞の過去時制 + 不定詞複合形

過去基準の場合にはタクシスのみ「完了(前時)」方向に1つずらす。

反実性のない意味(27c)(推測△5)は時制の一致を受けるため、必然的に多義。△6 別紙(28)(29)(30)

(27a) *Pensé que debías haberme llamado.* 電話くれるべきだった/電話をくれたはずだと私は思った。← (27b) *Pienso que debías haberme llamado.* / (27c) *Pienso que debes haberme llamado.*

多義性を解消したい時には反実仮想専用構文!

(31) 法動詞の接続法過去完了△7+不定詞単純形

ムードとタクシスの2つズレ??

(32)= (25) *Hubieras debido llamarme.*

電話すべきだったのに(しなかった)

3.2.3.法動詞の時制選択

「2つずらす」とき 法動詞の取りうる過去時制は、直説法点過去/線過去/過去未来、接続法過去。

線過去→無標形。1人称の場合は後悔、2,3人称の場合は非難の含意(価値判断のモダリティ追加)あり。

(36) *Debías haberme llamado.* 「電話をくれるべきだったのに。」

点過去→モダリティ自体も「終了」。現在まで継続する後悔や非難の含意少?

(37) *Debiste haberme llamado.* 「電話をくれるべきだった。」 (主動詞点過去のみ過去完了相当)

『スペイン語大辞典』(2015:1799) 点過去には価値判断認めず

poder ①[能力]7 [線過去、過去未来△9、接続法過去 ra 形+不定詞単純形・複合形で軽い不平・非難](38a) *Bien podías habérmelo dicho* mucho antes. 「もっとずっと前に言ってくれたらよかったのに」

→「実際には実現されなかった」ことが前提。+話者の価値判断

①8 [点過去+不定詞複合形で実際には実現されなかったこと]

(38b) *Su imprudencia pudo haber causado muchas pérdidas humanas.* 「彼の軽率さのせいで多くの人的被害が出て不思議はなかった」

過去未来・接続法過去→婉曲(atenuación o cortesía(RAE2011:149))のモダリティを追加。

(接続法過去の婉曲用法は法動詞 deber, poder, querer に限られる。(RAE2011:152))

(39) *Deberías/Debieras haberme llamado.* 「電話をくれるべきだっただろう。」

3.3.他の法動詞(相当の述語)の場合

querer, gustar, preferir, ser preferible, ser mejor 等は基準時によらず、原則、反実仮想専用構文。

(40) 法動詞の接続法過去完了+不定詞単純形 cf. debías haberme llamado.

(41) - Pues verás, lo (= el cuadro) tenía.

- ¿Cómo que lo tenías?

- Sí, mamá, lo siento. *Hubiera preferido no tener* que decírtelo, pero me surgieron muchos problemas y lo vendí, no me quedó más remedio. [LO166]

「(その絵)持ってたけど」「持ってた、ですって?」「そうなの、ママ、ごめんなさい。言わなくてすむならよかったんだけど[言わなければならなかった]、困ったことがあって売ってしまったの。仕方がなかったのよ。」 ..(42)

さらに前時に言及するときは、不定詞を完了形に(タクシスを移動)。

(計 4 つズレ!DEBER 型より 1 つ多い)

(43) 法動詞の接続法過去完了+不定詞複合形 cf.hubieras debido llamarme.

(44) *Hubiera sido preferible no haberme enamorado*, me digo. 「好きにならなければよかったのに。」
[MA103] ..(108)

20m

4.検討 2 (文解釈の規則) 「テンスとタクシスの 2 つズレ」のある形式の反実解釈の有無

4.1.法動詞+不定詞構文における反実解釈の可能性

[表 1] 基準時現在(発話時介入あり)の場合 *↓接続法(ムード)は入れずテンスとタクシスのズレのみ

白背景→ズレなし(非過去時制+不定詞単純形)

紫背景→ 1 つズレ

(過去時制+不定詞単純形、非過去時制+不定詞複合形、非過去複合時制+不定詞単純形のいずれか)

水色背景→ 2 つズレ (過去時制+不定詞複合形) ⇒反実解釈の有無を検討

3 つズレ(過去複合時制+不定詞複合形 *HUBIERA DEBIDO haber p.p* 等)は例がなく調査割愛。

[表 2] 基準時過去(発話時介入なし)の場合

白背景→ズレなし

紫背景→ 1 つズレ(過去時制+不定詞複合形) ⇒反実解釈の有無を検討

*時制の一致の適用外。基準時現在と同形だと 1 つズレ。

水色背景 2 つズレは例なし。割愛。

「法動詞を伴う前時の反実仮想を表す形式について」

© Yukie Kuribayashi2017

[表 1] 基準時現在 (左側 A 主動詞単純時制 / 右側 B 主動詞複合時制)
法動詞は DEBER3 単で代表させる。

	(a) +inf.(タクシスのズレなし)	(b) +haber p.p.(タクシス1つズレ)	(a) +inf.	(b)+haber p.p.
	(1)主動詞が現在または未来(テンスのズレなし)		(左の複合時制。タクシス1つズレ)	
1	DEBE decírselo	DEBE habérselo dicho 推測のみ	HA DEBIDO decírselo 文脈により前時の反実解釈?	Ha debido habérselo dicho
2	DEBERÁ decírselo	DEBERÁ habérselo dicho 推測のみ	HABRÁ DEBIDO decírselo **	Habría debido habérselo dicho
3	DEBA decírselo	DEBA habérselo dicho 推測のみ	HAYA DEBIDO decírselo **	Haya debido habérselo dicho
	(2)主動詞が過去系列の時制(テンス1つズレ)		(左の複合時制。タクシス1つズレ)	
4	DEBIÓ decírselo 文脈により前時の反実解釈?	DEBIÓ habérselo dicho 「言うべきだったのに/言ったはずだ」 反実解釈あり	HUBO DEBIDO decírselo **	Hubo debido habérselo dicho
5	DEBÍA decírselo 現在の婉曲あり	DEBÍA habérselo dicho 「言うべきだったのに/言ったはずだ」 反実解釈あり	HABÍA DEBIDO decírselo	Había debido habérselo dicho
6	DEBERÍA decírselo 現在の婉曲・反実解釈あり	DEBERÍA habérselo dicho 「言うべきだったのに/言ったはずだろう」 反実解釈あり	HABRÍA DEBIDO decírselo 反実解釈あり	Habría debido habérselo dicho (反実解釈可?)
7	DEBIERA decírselo 現在の婉曲・反実解釈あり	DEBIERA habérselo dicho 「言うべきだったのに/言ったはずだろう」 反実解釈あり	HUBIERA DEBIDO decírselo 反実解釈のみ	Hubiera debido habérselo dicho (反実解釈可?)

[表 2] 基準時過去 (A 主動詞単純時制 / B 主動詞複合時制)

	(a) +inf.	(b) +haber p.p.	(a) +inf.	(b)+haber p.p.
	(2)主動詞が過去系列の時制(テンスのズレなし)		(左の複合時制。タクシス1つズレ)	
4	DEBIÓ decírselo 文脈により前時の反実解釈?	DEBIÓ habérselo dicho 反実解釈あり	HUBO DEBIDO decírselo (例なし)	Hubo debido habérselo dicho
5	DEBÍA decírselo	DEBÍA habérselo dicho 反実解釈あり	HABÍA DEBIDO decírselo	Había debido habérselo dicho
6	DEBERÍA decírselo	DEBERÍA habérselo dicho 反実解釈あり	HABRÍA DEBIDO decírselo 反実解釈あり	Habría debido habérselo dicho
7	DEBIERA decírselo	DEBIERA habérselo dicho 反実解釈あり	HUBIERA DEBIDO decírselo 反実解釈のみ	Hubiera debido habérselo dicho 反実解釈のみ

*下線は反実解釈あり。*グレーの文字は収集例なし。紫は反実解釈説もあるため別途検討

4.2. 「過去時制+haber p.p.」構文の多義性とその例文

主動詞単純時制で反実解釈のある形式＝[表 1] 基準時現在 A-b4,b5,b6,b7 および[表 2] 基準時過去 A-b4,b5,b6,b7 （「反実仮想専用構文」(si, como si, ojalá)には解釈ルールは適用対象外。）

*今回は「2 ズレ反実」でどこまでいけるかを見るのが目的。反例の詳細な記述、解決策は次回

[表 3] DEBER 過去時制(主動詞単純時制)+haber p.p.の解釈

数値は全データを調査した[BO][FO][LO][MA][VP][NV]内例文数。括弧内は[CREA]から追加収集した例。

	基準時現在 [表 1]			基準時過去 [表 2]	
	(1)前時の反実仮想「(あの時)～すべきだったのに」 ★2 ズレ 反実	(2)現在の婉曲「(今までに)～たはずだろう」 ☆ルール反例 2 ズレ 非反実	(3)過去の推測「(あの時)～たはずだった」 ☆ルール反例 2 ズレ 非反実	(4) 過去の推測「～たはずだ」 ★1 ズレ 非反実	5) 前時の反実仮想「(あの時)～すべきだったのに」 ☆ルール反例 1 ズレ 反実
DEBÍO haber p.p. (b4)	1 (1)	0	0 (1)	1 (1)	2 (2)
DEBÍA haber p.p. (b5)	12	0	2	7	1 (1)
DEBERÍA haber p.p. (b6)	12	(2)	0	3	3
DEBIERA haber p.p.(b7)	0 (1)	0	0	1	0 (1)

水色背景..ルール通り。白背景..反例。

基準時に対し「2 つズレで反実解釈」＝列(1)

基準時に対し「1 つズレで非反実解釈」＝列(4)

4.2.1.基準時現在での「過去時制+haber p.p.」

[表 3] (1) ルール通り「2 つズレで反実解釈」 ..別紙(62), (64)-(67), (69)-(71), (74)

(64) *No debías haberte molestado.* 「気を遣わなくてもよかったのに。」

(71) No me echó, la verdad, me responde. Discutimos muy fuerte, pero *podría haberme quedado* en casa. Preferí irme, porque me cuesta mucho convivir con ella. 「(姉に)追い出されたわけじゃないの。彼女は答える。ひどい喧嘩したけど、家に居続けてもよかったんだと思う。でもむしろ出たかった。彼女と暮らすのはひどく大変だから。」 [FO111]

[表 3] (2) ルール反例「2 つズレで現在の婉曲＝非反実解釈」

*追加別紙(110) 川への洗剤流出

◇DEBERÍA haber p.p. 型(b6-2) .. (72) (73)

過去未来は実は現在と過去の両方をカバーする(過去から見て後時)ので本質的に多義。

同一文脈(パラグラフ)に過去時を参照する時制形式がない場合、現在の婉曲の解釈可能性あり？

(72)Es aquí donde radica la actuación con la que el ex alcalde portuense *podría haber incurrido* en el delito de prevaricación que se imputa a Eustaquio Santana. [CREA1999prensa, España] 「...元市長が背任罪にかかわった可能性があるだろうとする根拠はこれである。」 Puerto Real??

事実が確認されておらず「容疑者」であるからこそ *podría*(≠*puede*)。前掲(71)は現実の事象が確認されている。

[表 3] (3) ルール反例「2 つズレで過去の推測＝非反実解釈」*法動詞も過去時参照⇔反実は現在(の婉曲)[図 1]

◇DEBÍA haber p.p.型(b5-3) ..別紙(109) DEBIÓ haber p.p. 型(b4-3) ..別紙(63)

(68) Si no mandan ustedes otra cosa, ... Pues, buenas tardes. El cable estaba completamente quemado. *Podían haber tenido* un cortocircuito. 「ほかに御用がございましたら... では失礼いたします。ケーブルが完全に燃えていましたよ。ショートしたのかもしれませんが(?)。」 [LO14]

⇒ *Pueden haber tenido* ...もしくは *Es posible que hayan tenido* ... の方が良いとのコメントあり。estaba がなければ...? 会話文(現在基準)なので pueden でよいはずだが、本発表中一番の問題例文。

4.2.2.基準時過去での「過去時制+haber p.p.」

[表 3] (4) ルール通り「1 つズレで非反実解釈＝過去の推測」.. (75), (79)(80), (82), (85)

(75) Los peritos también llegaron a poner en tela de juicio si las grabaciones *podieron haber sido realizadas* entre teléfonos fijos, 'dado que la señal sale en ocasiones al espacio'. 「専門家たちは記録された通話が固定電話間で掛けられた可能性がありえたかどうかを問題とするに至った。」('へ'のみ直接話法) [CREA1999prensa, España]

[表 3] (5) ルール反例「1 つズレで反実解釈」

時制の一致が適用されず「反実解釈」も可能なはずだが、DEBÍA +haber p.p.では少ない。

基準時過去になると(「1 つズレ」だけだと)『～なのに』という後悔や非難の意味が希薄に思われる。

(81) No había más que una mesa ocupada por un chico joven y una mujer menos joven. *Podía haber elegido* otro rincón cualquiera para sentarme, ya que estaba vacío, pero me había puesto cerca de ellos sin poderlo remediar. 「空いているのだから他の席を選んで座ってもよかったのに、どうしようもなく彼らの近くの席に着いてしまった。」 [NV222]

逆に DEBIÓ+haber p.p.は集計した例以外にも、スポーツの試合の報道等で、結果がわかったうえで、「もしこうだったら」と仮定する場面によく見られる。

この場合の点過去はアオリストの用法であり、基準時の過去に対して「さらに過去」を表していると考ええると、「テンスも1 つズレ」ていることになり「2 つズレで反実解釈」のルールに合致する。..(76)-(78)

(77) Al final fue 3-0, pero *pudo haber sido* cualquier otra cosa. [CREA1999prensa, España]

(78) lo que *pudo haber sido*. 「ありえたかもしれなかったこと」は定型句か?

DEBERÍA +haber p.p.は過去未来の性質上多義。解釈は事象成立に関する知識に依存。(過去未来は時制を特定しないための形式?) .. (83)(84) cf. 非反実(82)

(83) ¿Cuándo vas a volver?, preguntó Julián, desconcertado, pero no tuvo respuesta. *Debería haberla presionado, haberla obligado* (a Verónica), quizás, a que le confesara lo que él negligentemente comenzaba a sospechar: 「もっと強く言って、... 白状させるべきだったのだろう」 [VP46]

接続法を使用する場合、条件節や願望文以外でも、曖昧さのない反実仮想を表すのならば HUBIERA DEBIDO p.p.型(専用構文)を用いればよく、DEBIERA+haber p.p.型は相対的に少ないようである。以下は de+haber p.p.の条件文なのでその帰結節も反実解釈に限定される。

(86) y de haber acertado tanto Mauricio como Sion en los minutos 5 y 18 de juego, *quizás el resultado pudiera haber sido* otro. 「結果は別のものになりえただろう」 [CREA1999prensa, España]
=hubiera podido ser otro

接続法過去+haber p.p.は基本、3.1.1.反実仮想の環境で用いられ、その他の環境での出現は少ない。

40m

4.3. 「過去複合時制+inf.」構文の多義性とその例文

主動詞複合時制で反実解釈あり→[表 1] B-b4,b5,b6,b7, [表 2] B-b4,b5,b6,b7

主動詞複合時制の場合は、基準時によらず、以下のとおり形式ごとに解釈が固定。

⇒解釈ルール「2 ズレ→反実」は当てはまらない。(ルールは主動詞単純時制のときのみ なぜ?)

HUBO DEBIDO inf.は現代語では使用されず。

HABÍA DEBIDO inf.は反実解釈なし。..(50), (54)(55)

*perfecto だから現在を婉曲的に表すのは無理

HABRÍA DEBIDO inf.は過去完了の推量との多義(のはず。例見つからず..)。..(51), (56)

(56)' entonces *habrías tenido que entrar* en aquella habitación cerrada.

「入らなければならなかっただろう」⇒知識があれば「でも入らなかった」含意。反実解釈は本来的ではない。

HUBIERA DEBIDO inf は反実解釈のみ。..(52)(53), (57)(58)

会話でも HUBIERA DEBIDO inf.は問題なく使える。

(52) Gonzalo estaba muy pálido, desencajado. Había venido casi corriendo y se había despistado, se había equivocado de calle.

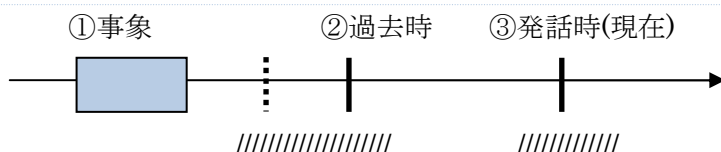
- *Hubieras debido llamarme* - le dije.

「ゴンサロは顔色が悪く同様していた。走ってきたら、ぼんやりしていて、道を間違えてしまったのだという。

『電話してくれればよかったのに』私は彼に言った。」 [MA111]

4.4.まとめと問題点

[図 1] DEBER 過去時制+haber p.p.構文



基準時現在のときの DEBÍA/DEBERÍA/DEBIERA は③の点を除く(=婉曲)斜線部を参照。
(過去を指示しない過去時制) * DEBERÍA は要検討。現在以降(後時性)も示せるのは過去未来のみか?
DEBIÓ は②を参照。 *非反実解釈の DEBÍA/DEBERÍA/DEBIERA は②斜線部
(DEBE+haber p.p.は DEBE が③を含む斜線部。)

基準時過去の時の DEBÍA/DEBERÍA/DEBIERA は②を含む斜線部を参照。
DEBIÓ は②を参照。

事象自体①はいずれの場合も基準時よりも前時に位置する。

・点過去以外の 3 つの過去時制は imperfectivo であり、基準時現在のときには現在の婉曲用法(発話時の 1 点を除いた現在の周辺)とみなすのが適切。copretérito なので、それ自身では時間軸上に事象を位置させず、他の動詞形式に依存。

・点過去は perfectivo(アオリスト)(②点線)であり、基準時現在のとき参照時は過去(「義務」のモダリティ自体も過去に位置付け)。基準時過去のときにもテンスが「1 つズレ」て、反実仮想の読みが優勢に? ただし『～のに』の意味は本質的でない(?)。

「法動詞を伴う前時の反実仮想を表す形式について」

©Yukie Kuribayashi2017

・結局のところ事象成立に関する「知識」は必要。「反実仮想」がその定義上、事象成立の確認を前提とした概念なので仕方ない(?)。

あるいは「反実仮想」の形式自体がテキストに「発話時介入」(語り手、書き手の介入)を生じさせるのか?

4.5. 「法動詞点過去/現在完了+不定詞単純形」の反実解釈について

川上(1996:104) HA DEBIDO+inf.および DEBIÓ+inf.も反実解釈可能。

解釈ルールを適用すると

HA DEBIDO inf. (Ba1)は基準時現在で1つズレ、ルール通り前時の反実解釈なし。.. (87)

(現在完了なので過去基準では出現せず)

DEBIÓ inf. (Aa4) は基準時現在で1つズレ、基準時過去ならズレなしで、ルールに従うと、前時の反実解釈なし。単に「すべきだった」という義務の存在を表す。反実読みが可能になるのは言語外知識による二次的なもの。..(88), (89)(90)

5. 検討 3：前時の反実仮想と mirative(驚嘆性)

5.1.動詞形式の3つの軸

モード リアル(時間軸との結びつき)⇔ヴァーチャル(時間軸とは独立)

Veiga y Mosteiro(2006:37) objetivo $\Leftrightarrow$ subjetivo(話者=発話時の介入?=価値判断?)

発話時(現在)を基準に参照時を時間軸上へ指示。

アспект(タクシス) 時間軸とは独立の、事象間の前後関係。

5.2. テンス/タクシスの移動の持つ意味

5.2.1. 過去/前時方向

タクシスの移動

前時(過去)の反実仮想→(接続法)「過去完了」または「法動詞過去+不定詞複合形」を使用。

(91) Ojalá *hubiera podido* hacer algo por ti.

(92) Debías *habérmelo* dicho.

参照時は過去(であって過去完了ではない)。実際よりも「前時方向に1つズレ」。***正確には現在完了?**

テンスの移動

非前時(現在)の反実仮想→(接続法)「過去」または「法動詞過去+不定詞単純形」を使用。

(93) Ojalá *pudiera* hacer algo por ti.

(94) [現在の婉曲(≡Debes)] *Debías ponerte* el termómetro. - Ya lo he hecho. Tengo treinta y nueve y medio. 「熱を測らなきゃだめよ」「もう図ったわ。9度5分あった。」 [L090]

(95)["] *Deberías* estudiar más.

参照時は現在(であって過去ではない)。実際よりも「過去方向に1つズレ」

「過去・前時方向への移動は『反実性(不実現)』を表す」

⇒接続法の表すもの(ムードの変更)とテンスの移動(ズレ)との違いは何なのか?? どちらも irrealidad??

5.2.2. 未来/後時方向

タクシスの移動

(栗林 2016)感情評価述語の補文

(104) Te equivocas, me dijo (mi madre) ... Entiendo que te moleste lo que te digo, pero deberías ser un poco más tolerante. (改段落) Me pareció extrañísimo que mi madre *usara* esa palabra, tolerante. 「母が *tolerante* なんていう言葉を使ったのが私にはとても不思議だった。」 [F080]
 実際よりも「後時方向に1つズレ」。敢えて成立していないこととして「意外性」を表現。△14

テンスの移動

(西川 2010:180)「直説法未来形の用法 6.驚き、不安、意外性などを表す」

(105)¿*Será* posible lo que me ha dicho Elena por teléfono?

(106)¿Qué desvergonzado *será* ese hombre, que ha hecho tal cosa!

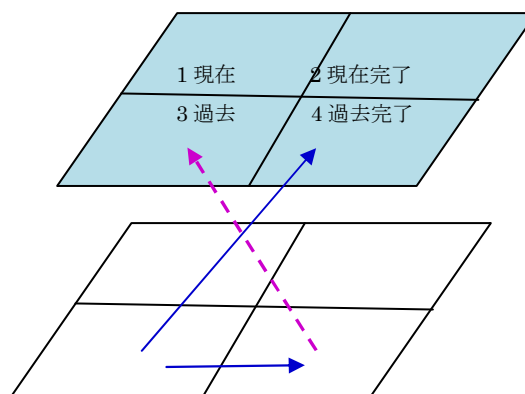
*川上(2010:30)「Rojo y Veiga(1999) 不確実性(*incertidumbre*)」, Veiga y Montero(2006:39) 否定の含意と不確実性は「転位」で表現
 「未来・後時方向への移動は『驚嘆性(意外性)』を表す」 ↑ 専用の形式は持たない

[図 2] モデル図制作中...

A : 接続法

B : 直説法

*未来は??



contrafactual (実線) タクシス前時方向へ移動

事象 No me tocó la lotería. B 3 (直説法、過去、非前時)

↓

反実性 Ojalá me *hubiera tocado* la lotería. A4 (接続法、過去、前時)

↓

事象 No me llamó por teléfono. B 3 (直説法、過去、非前時)

↓

反実性 *Debías haberme llamado* por teléfono. B 4 (法動詞)+(直説法、過去)+(前時(不定詞))

mirative (点線) タクシス後時方向へ移動

事象 mi madre había usado esa palabra. B 4 (直説法、過去、前時)

me pareció extraño B 3 (直説法、過去、非前時)

↓

意外性 me pareció extraño que mi madre *usara* esa palabra A3 (接続法、過去、非前時)

6. 結論・検討 1-3 のまとめ

6.1. 文生成のルール

基準時現在(発話時介入あり)の場合：

現在を基準に前時の反実仮想を表すには、

発話時(現在)からテンスとタクシスの2つをずらした

法動詞過去形+不定詞複合形

法動詞の無標の形式は線過去 **DEBÍA haber p.p.**。後悔、非難『～のになかった』を含意。

基準時過去(発話時介入なし)の場合：

基準時より前時の反実仮想を表すには、法動詞過去形+不定詞複合形

基準時によらず曖昧さを排除するには、法動詞接続法過去完了+不定詞単純形 **HUBIERA DEBIDO inf.**

基準時過去で後悔、非難『～のになかった』を含意したい場合はこの形。

6.2. 文解釈のルール

条件文、願望文など反実仮想専用の環境では、多義性のある形式でも反実解釈が優先。

それ以外の環境で

法動詞接続法過去完了+不定詞単純形 **HUBIERA DEBIDO inf.**の形は常に前時の反実解釈。

基準時現在(発話時介入あり)の場合：

主動詞単純時制でテンスとタクシスの2つズレがあれば前時の反実仮想の解釈可。線過去では無標(?)。

基準時過去(発話時介入なし)の場合：原則多義。

タクシスのみ1つズレ→非反実解釈が無標。反実解釈かの判断には事象成立に関する知識が必要。

DEBÍO+haber p.p.は点過去がアオリスト的に機能し「2つズレ」で「反実解釈」の傾向(?)。

6.3. 反実仮想と驚嘆性(意外性) mirativity

基準時以前に成立した事象に関して、事象成立の知識を前提としたうえで、

テンスまたはタクシスを1つ前時方向に移動することで「反実性」を表現。

逆にテンスまたはタクシスを1つ後時方向に移動することで「驚嘆性」を表現。

テンスおよびタクシスの移動が、時制形式本来の、事象の時間指示や前後関係とは異なる意味を表現。

6.4. 今後の課題

◇モデル図 [図 2]

- ・テンスの変更とタクシスの変更は同質ではないはず。厳密な記述を。
- ・ムードの変更の扱い。感嘆文(→典型的 mirative)等直説法/接続法が揺れる文脈も同じモデルで表現。

◇多義性のある形式の解釈 ... 言語外知識に頼らず、統語環境から判断できないかの詳細な検討を。

- ・テキストの基準時を判断できるかが要。"現在のこと、過去のこと、過去を現在として"etc.
- ・過去未来は、過去を基準とした後時性を表し、過去と現在を区別しない。あえて時間指示をしないための過去未来だとすると、解釈の区別はできる?? 過去の動詞形式がないなら「現在の婉曲・推量」?? 反例(110)掲載外

「法動詞を伴う前時の反実仮想を表す形式について」

© Yukie Kuribayashi2017

- ・過去の「かたり」テキストに混在する現在形の動詞の語彙、語順は解釈の判断の助けとなるか?
ahora pienso...(69), creen que...(62), no sé ... [表明思考動詞現在形+DEBER 過去 haber p.p.]
... se supone, ... no me acuerdo(109) [DEBER 過去 haber p.p.+表明思考動詞

現在形]

- ・会話の中で過去時を参照する際に、基準時が現在から過去に移ったかの判断 →(68)
- ・人称と解釈。「義務的 deontic モダリティ」(価値判断あり)は原則 1,2 人称→反例(109)(88)
- ・否定。今回のデータの中では法動詞に no を伴うか否かと解釈には関連が見られなかったが...

◇その他

- ・HABÍA DEBIDO inf.が常に非反実の理由。HABRÍA DEBIDO inf./HUBIERA DEBIDO inf.の相違。
- ・関係節内の反実仮想→関係節内は法の選択に制約あり。
- ・法動詞 deber / tener que / poder などの解釈の分布。

参考文献

- DeLancey, Scott. 2001. "The mirative and evidentiality". *Journal of Pragmatics* vol.33. no.3. 369-382
- 川上茂信. 1996. 「あなたのしなかったこと」. 『スペイン語学研究 11』. pp. 101 - 106.
- 一. 2010. 「スペイン語動詞体系における時間的多義性について」. 『スペイン語学研究 25』. pp. 17 - 39.
- 一. 2014. 「義務と反実性: スペイン語 deber と tener を巡って」. 『ロマンス語研究 47』. pp. 11 - 20.
- 工藤真由美. 1995. 『アスペクト・テンス体系とテキスト-現代日本語の時間の表現-』. ひつじ書房
- 栗林ゆき絵. 2016. 「感情評価述語の従属節における接続法過去完了と接続法過去の時制選択」. 『スペイン語学研究 31』. pp. 43- 64.
- 西川喬. 2010. 『わかるスペイン文法』. 同学社
- Real Academia Española. 2011. *Nueva gramática básica de la lengua española*. ESPASA /Editorial Planeta Mexicana
- Rojo, Guillermo. 1990. "Relaciones entre temporalidad y aspecto en el verbo español". en Bosque, Ignacio(ed.) *Tiempo y aspecto en español*. Cátedra. 17-43.
- 寺崎英樹. 2012. 「法性を表す動詞 deber の時制」. 『スペイン語学研究 27』. pp. 63 - 83.
- Veiga, Alexandre y Mosteiro Louzao, Manuel. 2006. *El modo verbal en cláusulas condicionales, causales, consecutivas, inales y adverbiales de lugar, tiempo y modo*. Ediciones Universidad Salamanca.
- 山田善郎ほか. 1995. 『中級スペイン文法』. 白水社
- 山田善郎, 吉田秀太郎ほか. 2015. 『スペイン語大辞典』. 白水社

資料体 *出典の表示がない文は、筆者作例、インフォーマントチェックにより適格であることを確認。

- [BO] Zambra, Alejandro. *Bonsái*. Barcelona, Anagrama, 2013. (1ªed. 2006)
- [VP] Zambra, Alejandro. *Vida privada de los árboles*. Barcelona, Anagrama, 2007.
- [FO] Zambra, Alejandro. *Formas de volver a casa*. Barcelona, Anagrama, 2011.
- [FR] Martín Gaité, Carmen. *Fragmentos de interior*. 6ª edición en DestinoLibro, Barcelona, Anagrama, 1993. (1ªed. 1976)
- [NV] Martín Gaité, Carmen. *Nubosidad variable*. 15ª edición, Barcelona, Anagrama, 1994. (1ªed. 1992)
- [LO] Martín Gaité, Carmen. *Lo raro es vivir*. 4ª edición, Barcelona, Anagrama, 1996. (1ªed. 1996)
- [IR] Martín Gaité, Carmen. *Irse de casa*. 4ª edición, Barcelona, Anagrama, 1998. (1ªed. 1998)
- [MA] Puértolas, Soledad. *Compañeras de viaje*. 1ª edición en *Compactos*, Barcelona, Anagrama, 2011. (1ªed. 2010)
- [CREA] Real Academia Española. *CREA*. <http://corpus.rae.es/> (2016年8月～2017年2月)
- サンブラ, アレハンドロ. 松本健二訳. 『盆栽・木々の私生活』. 2013. 白水社